

令和3年度 園評価書

園番号 7

園名 大川こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
たくましく豊かな心と丈夫な身体を育む	身近な環境に積極的にかかわって遊ぶ	自分のやりたい遊びを見つけ、満足いくまで遊ぶ	季節や興味関心に合わせて環境を作るようにしてきた。「今日は〇〇をやりたい」と自ら遊び楽しみ、次の日にも遊びが続いたが遊びが展開することは園児が一人という事もあり難しかった。	B	A	・話は気分もあるので言えないが初めてが苦手であることはわかる。難しさを感じると言葉少なになるが素直に「難しい」と答える。積極的になっていると感じる。・市街地の子と比べると色々な経験をしているので引き出しは多いと思う・子どもが一人なので遊びの展開は難しいと感じるが、園で工夫して保育が良くできている	環境は月案、週案検討の時に見直し改善し整え用意する。遊びの展開は保育教諭が遊びの協同作業員として遊び一緒に考えていく。近隣園との交流をもち子ども同士の遊びや話し合いを経験しているように計画する
		戸外で身体を動かして遊ぶ	鬼ごっこ、缶蹴り、サッカー、野球、縄跳びなど、子どもの興味、関心に合わせて保育教諭全員が子どもとかかわって遊びを楽しんだ。毎日戸外にでて体を動かす時間を作る様に心掛けると子どもも体を動かすことを楽しいと感じるようになった。	A	A		今後も子どもが興味関心をもった遊びを一緒に楽しんでいく。
		友達や保育者と遊びを楽しみ、不思議さや面白さを自分なりに伝える	興味を持てることに対しては自分から図鑑や本を持ってきて調べ、調べたことを保育教諭に知らせようとする姿があった。しかし、抽象的な表現になると「面白かった」「楽しかった」という表現しか出てこなかった。表現を豊かになってほしいと考え絵本も多く読むようにしたが、大人とのかかわりの中で表現しなくてもわかってくれるだろうと予想して保育教諭の言葉待つことも多かった。	B	B		保育教諭は、かかわりの中で言葉が多く言葉を引き出そうとするあまり先に言葉を発してしまうことが多いので子どもの言葉を待つ様にする。絵本の読み聞かせについては今後も続けていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	豊かな自然の中で、探求心や人との繋がりや大事に思えるように援助する	散歩を通して地域の自然に触れ、獣道の探索や河原に咲く花や木に興味をもち四季を通して観察し、地域の人に草花の名前を聞いたり、木の実の収穫時期を聞くなどして年間を通して人とつながることを心掛けた。その結果保育教諭がいなくても近所の人に挨拶するようになった。	A	A	・一人をメリットと取るかデメリットと取るかで展開が変わってくる。メリットと捉え保育できていると思う	地域の人たちとの挨拶や日常の会話を保育教諭も積極的に行っていく。
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムに合わせて、心地よく過ごせるように配慮する。	A	A	・集団でのコミュニケーション力、学びの伝え合いが伸びていかなが、交流をもち考えていると感じる。今後でもできることを考え実行して行ってほしい。リモートでのコミュニケーション授業を小中学校も取り入れているので取り入れていけると良いかもしれない	新しい生活様式を踏まえて、家庭と連絡を取り合いながら一人一人に合わせて園での生活が安心、安全で過ごせるようにする。
		(3)環境を通して行う教育及び保育	地域の自然に興味を持ち5感を通して感じたことや考えたを試したり、工夫したりできるように援助する。	大川地区で見られる生き物、花、木の实など図鑑で調べ名前を知り、触れる、嗅ぐ、植える、育て収穫して食べてみる等五感を通して感じ経験することが出来た。木の実、木の葉、枝を使いリースやツリーを作ったり草花を使って色水遊びをしたり子どもが試したり工夫したりできた。	A	A	・一人しかいないからこそ、そこをカバーしていくもっと踏み込んだ案がほしい。大勢になった時にいろいろな問題も起こってくる。一人でやる力についてはきている
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	さまざまな災害を想定した訓練を行い職員の意識を高め、園児には身を守る方法を知らせていく	大川地区で起きる災害を想定し園がどのように対応すればよいかを考え訓練してきた。訓練の後で振り返りを子どもも交えて行い職員や園児の意識を高めてきた。避難地である大川小中学校までの危険箇所についても確認しながら歩くことが出来園児が危機感をもって動くことが出来た。しかし、地域がら不審者についての意識が低く訓練を行っても危険を感じることが出来なかった。	B	B	・競争心がどうしてももてないのでもどこかで経験してほしい。吸収力はあると感じる	駐在所の警察官や近隣の方にも協力してもらい不審者訓練を行うなど実践的な訓練をおこなっていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食材や栄養について興味を深まるよう食育活動を行う 手洗い、マスク着用等必要なことを丁寧に伝える	給食の献立表を見ながら毎日の給食の栄養素チェックを自ら行うようになり食に興味をもつようになった。栄養素を考えるようになったことで苦手な食材の栄養を考え少し食べてみようという気持ちももてるようになった。マスクの着用については自分でマスクをするようになった。手洗いについては、寒くなると洗ってはいいるが丁寧さには欠けている	A	A	・一人しかいないからこそ、そこをカバーしていくもっと踏み込んだ案がほしい。大勢になった時にいろいろな問題も起こってくる。一人でやる力についてはきている	給食だけでなく地域で収穫できる野菜や好きな野菜、苦手な野菜を計画的に栽培し食材や栄養について興味を深まる様にする。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員が園児の発達を共有し、一人一人に合ったかかわりをしていく	職員会議や週案検討会の中で個の発達について共有し同じ対応ができるようになった。しかし、それぞれの立場の違いから発達についての理解は同じでも対応が違うことがあった	B	B	・不審者訓練は大人が学び活かせるような訓練にしていくと良い	週案、月案、学期末の指導計画の検討会をなるべく全員で行いそれぞれの立場から見える発達について話し合い確認していく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員が保育に対する思いを伝えあい共通の意識をもって、教育・保育を進めていく	週案検討、月案検討では保育について共通理解を持って取り組んできたが行事の予定の伝達不足や言葉不足や資料不足が目立った。	B	B	・保護者とよく連携が取れている。保護者や地域への発信力もあると感じる。・今後Aの評価の項目の質を上げていってほしい	行事の取り組み方の検討、見直しを行い計画にゆとりをもって行う。
6 研修	(1)研修体制の充実	園児の興味や姿を捉え、環境を見直す。地域の資源についても調べる。	遊び環境図をつかったの週案検討を行うことで園庭での遊びの環境を見直せた。室内環境についての見直しできていなかった。地域資源については、ESDの研修に参加したことで十分に調べることが出来た。	B	A		保育教諭も遊びの環境であることを踏まえて遊びの広がりももてるように声掛けをする。環境図は、園庭だけでなく室内の環境図も作成し反省、見直しを行う。ESDについては、今後も研修に参加していく。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが選べる材料、身近な素材を活かし、子どもが遊びだしたくなるような環境を準備する。	教材の与え方、使い方について確認するようにしたことで、十分に材料や素材が活かされたと感じる。特に戸外での遊びの環境は日々、子どもの興味に合ったものとなっていた。遊びが次の日に続くことも多かった。室内遊びの環境準備は、9月以降になってから充実を図ることが出来た	B	A		散歩や園庭で自然素材を見つける。園外保育に出かける時にも自然物に目が行くように援助していく。環境図を室内外作成し環境について見直し、再構成していく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と職員が子どもの姿を共有するとともに、園児が今日のことを伝えたいような作品の展示や写真での掲示を行っていく	毎日の連絡ノートやおたよりで写真を記載することで子どもの様子がより詳しく伝わった。作品の展示方法や作品を作っている過程を保護者に伝えることで子どもの成長や今の姿を保護者と保育教諭で共有することが出来た。	A	A		写真や実物を活用した保護者への共有方法は今後も継続していく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	清沢、中蘆科、井川、梅ヶ島こども園との交流を通して自園ではできない経験を積んでいく	井川、梅ヶ島こども園との交流も順調に行った。中蘆科こども園との交流は新型コロナウイルス感染予防対策の為8月から10月まで中止していたが11月から再開している。清沢こども園との交流も順調に行った。清沢こども園は、本園に8月にプール遊びのため来園9月には栗拾いの為に来園した。年長児との交流だけでなく年下の子とかかわりももてた。	A	A		来年度以降も継続的に交流をしていく。公開授業や園内研修を蘆科地区、山間地園でおこない子どもだけでなく職員の交流もしていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の方と触れ合う機会を大切に、開かれた園づくりを目指す	今年度新しい試みとして地域と朝の体操、避難訓練、消火訓練を一緒に行った。また、園近隣家庭に園日より地域だよりを配布し園の様子を伝えた。園の様子がわかり散歩の時や園外保育に出かける時など気軽に声をかけてくれるようになった。	A	A		地域との体操、避難訓練、消火訓練を継続して行う。園日より地域だよりの配布を今後も続けていく。